

令和6年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証

学校の概要

堺川小	学校
-----	----

児童数	166
-----	-----

平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	16.12	19.28	27.76	37.17	40.17	9.74	159.26	19.56	49.86
大阪市	15.78	19.09	32.72	38.56	45.05	9.52	147.96	20.45	51.13
全国	16.01	19.19	33.79	40.66	46.90	9.50	150.42	20.75	52.53
女子	15.63	18.25	31.74	36.24	36.15	9.74	149.75	11.63	51.93
大阪市	15.64	18.06	37.62	36.76	34.65	9.83	139.56	12.71	52.47
全国	15.77	18.16	38.19	38.70	36.59	9.77	143.13	13.15	53.92

結果の概要

男子は、全国平均に比べて3種目（握力・上体起こし・立ち幅跳び）、大阪市平均に比べて3種目（握力・上体起こし・立ち幅跳び）が上回った。

女子は、全国平均に比べて2種目（上体起こし・立ち幅跳び）、大阪市平均に比べて4種目（上体起こし・20mシャトルラン・50m走・立ち幅跳び）が上回った。

「運動やスポーツをすることは好きですか」では、男子が87.9%で全国平均より5.3%低く、大阪市平均より5.5%低かった。女子は88.2%で大阪市平均より3.7%高く、全国平均より2%高かった。

「1週間の総運動時間が60分未満の子ども」は、男子が15.9%で全国平均より6.7%多く、大阪市平均より4.9%多かった。女子は22.6%で全国平均より6.6%多く、大阪市平均より2.7%多かった。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

これまで体育科において「自分の動きを言語化し、体現化につなげる」ことを研究してきた。教えることと気づかせることを明確にし、運動の技術について「教え」、動きのこつやチームの作戦には「気づかせる」指導法を工夫するとともに、運動量を確保することにも重点を置いて取り組んだ。また、授業の中で音楽を積極的に活用したり、子ども同士が対話する機会を設けたりすることで楽しみながら運動に向かう児童が多くみられた。トップアスリート「夢・授業」では、大阪市経済戦略局と連携をしてプロフットサルチームの選手を講師として招き、運動への興味関心を高めるとともに、夢をもつことの大切さを学んだ。取り組みの結果、男子92.6%、女子88.1%が「体育の授業は楽しい」と回答した。

児童数が増加傾向で、今後も限られた場という課題はあるが、場所や時間の使い方を工夫し、運動の機会をしっかりと確保できるようにしていく。

今回の結果から見えてきた課題をしっかりと分析し、児童が自ら楽しく運動に向かうことができるよう日々の授業改善を行っていくとともに環境も整備をしていく。また、授業以外の時間でも「楽しみ」ながら「継続」して運動に向かうことができる環境を作り、全校で取り組みを進めていきたい。